



卒業生によるボランティア活動グループわ会報

情報ぎやらり

第47号

発行日 2009年7月27日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 加藤 勇治
 発行元 NPO法人社会還元センター
 グループ“わ”
 TEL (078) 743-8101 FAX (078) 743-3830
 Eメール wa_gallery@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp

2009年グループわ 第6回 定期総会
 『新しいわの旗印の下で、ボラン
 ティアの輪を広げよう！』
 平成21年度の事業方針と新体制が決まる！

第6回定期総会開催日(5月26日)直前に、神戸市内を中心に新型インフルエンザの感染が拡大するという予期せぬ事態が発生しました。このため、第6回定期総会は感染予防の観点から、来賓のご招待を一切取りやめるとともに極力出席者を絞り、しあわせの村研修館に会場を変更して実施するという異例の総会となりました。

総会は、芳賀順子さん(福10)の司会で進められ、加藤理事長(美10)の挨拶、来賓のメッセージの紹介、に続いて、議長に、井上堅さん(福8)、書記に三島隆夫さん(生8)を選出した。当日の会員数1,154名、総会出席者70名、委任状675名計745名で、会員数の過半数を得て、総会は成立する旨の報告が議長より行われた。

議事に移り、藤田副理事長(福11)より、平成20年度の事業報告、西田副理事長(生9)より、平成20年度決算報告、高橋監事(国9)より監査報告がそれぞれ行われ、一括採決の結果、挙手多数で可決された。

井上議長より、21年度新役員選任の提案があり、新理事長に加藤勇治さんをはじめとして、下記の新役員が承認された。

加藤新理事長より、『グループわの新しいシンボルマークのもとに、一人でも多くの人々が結集し、ボランティア活動を進めて行こう。』という力強い決意表明が行われ、続いて清水副理事長より、平成21年度活動計画、西田副理事長より事業予算の提案説明があり、いずれも挙手多数で承認された。

最後に、藤田前副理事長より、退任役員を代表してお礼の挨拶と新旧の部会長、区会長環境未来館責任者の紹介があり、2時30分過ぎに、閉会した。また、昨年まで実施されていた「第2部 文化部(次頁へ続く)」



監事	高木稔雄	(国)	新
監事	上田市夫	(生)	再
環境未来館責任者	山口俊雄	(生)	新
西区会長	近藤龍彦	(食)	新
垂水区会長	橋本利雄	(生)	新
須磨区会長	佐々信義	(福)	再
長田区会長	岸田重徳	(国)	新
北区会長	土井昭政	(国)	再
兵庫区会長	大掛敏夫	(生)	再
中央区会長	元田弘忠	(生)	新
灘区会長	福田望	(国)	再
東灘区会長	長谷川博	(生)	新
いきがい部会長	大西勲	(園)	新
文化部会長	松矢征男	(国)	新
環境部会長	菅田忠志	(生)	再
国際部会長	岸田重徳	(国)	新
福祉部会長	横井幸雄	(福)	再
非常勤理事(区会代表)	土井昭政	(国)	新
非常勤理事(部会代表)	菅田忠志	(生)	新
理事(事業担当)	増金スミ子	(福)	再
理事(事業担当)	米倉和子	(生)	再
理事(事業担当)	道満俊徳	(生)	新
理事(広報担当)	今田紘	(国)	新
理事(財務担当)	藤田忠之	(福)	新
理事(財務担当)	一森美代子	(福)	再
理事(総務担当)	宮崎芳江	(生)	再
理事(総務担当)	徳増芳男	(生)	新
理事(事務局長)	渡邊佳視	(生)	再
理事(企画担当)	長谷川洸士	(国)	再
副理事長(事業担当)	清水英暢	(美)	再
副理事長(財務担当)	西田圭一	(生)	再
理事長(企画担当)	加藤勇治	(美)	再

平成二十一年度社会還元センター
 グループわ 新役員

(前頁から続く)

会のパフォーマンス」は、今回は中止になったが、第2部のあり方を再検討して次回以降に、あるべきパフォーマンスの形態を具体化することになった。

第6回定期総会 理事長挨拶

理事長 加藤 勇治

【当総会で再任が承認された加藤新理事長から、新理事を代表して「子どもの健全育成」と「高齢者の健康増進といきがいづくり」をわの事業運営の2本柱として取り組む旨の決意表明がありました。詳細は後掲の「新役員の紹介、理事長」の項を参照ください。】

ご承知のとおり、神戸市内中心に新型インフルエンザ感染拡大という予期せぬ事態が発生しました。このため第6回定期総会にご来賓のご招待を一切取り止めるとともに、感染予防の観点から極力出席者を縮小して実施するという異例の総会となりました。一人でも多く参加いただくことが本来ですが、やむを得ない措置とは言え誠に残念なことでもあります。

さて、この1年を振り返ってみますと、多くの会員の皆様の意欲的な活動によって幅広い分野において概ね順調に事業を推進することができました。多くの方々に喜んでいただき、グループわの認知度が一段と高まってきたように思います。

この会場正面に掲示しています明るい若葉色シンボルマークの旗にご注目ください。これが昨年度会員からの応募により、新たに制定しましたグループわのシンボルマークです。縦軸の太い柱は会員の豊かな知識・経験を社会還元するという強い意志、精神を表しています。この柱を囲む丸いリングは有志の輪、会員の融和、チームワークを表しています。新しい旗印のもと、気分も新たに、力を合わせて事業を推進してまいりたいと決意を新たにしております。

当総会では、20年度の事業および決算報告、21年度の事業および予算計画などを審議いただきますが、第3号議案では役員を3名増強し15名体制といたしました。これは業容の拡大による純増1名に加え、区会代表と部会代表の中から、それぞれ1名

づつ2名の方を非常勤役員としてわの経営に参画いただくための措置であります。区会、部会の意見をわの事業運営に反映すべきであるというこれまでの懸案が具体化できません点をご理解いただき、ご承認たわまりたいと存じます。

限られた時間ですが、各議案について充分ご審議いただき、わの事業運営について更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

来賓メッセージ紹介

市民福祉振興協会 専務理事 岸本義一様

【本来、ご来賓としてご招待申し上げる予定でありました こうべ市民福祉振興協会 専務理事 岸本 義一様から、今回の定期総会に以下の熱いメッセージが寄せられました。】

NPO社会還元センター

グループ わ 理事長 加藤 勇治 様

平成21年度「NPO法人 社会還元センター グループ わ」定期総会の開催を、お慶び申し上げます。

このたびの新型インフルエンザ感染拡大の防止策において、カレッジを休校することとなり、大変ご不便をおかけすることになりましたが、皆様のご協力のもと、この月曜日から無事再開できました。ありがとうございます。また、日頃は、しあわせの村をはじめ神戸市の様々な事業にご理解、ご協力を賜っており深く感謝申し上げます。

さて、シルバーカレッジには、今年も16期生が454名入学いたしました。建学の精神「再び学んで他の為に」をモットーに、これまでの知識や経験に、さらに磨きをかけ、ご活躍いただけるものと期待しています。

卒業後は「グループ わ」の会員となり地域のボランティア活動に参画する方も多く、その活躍ぶりにはいつも感心しております。これも、加藤理事長様をはじめ、役員皆様を中心とした真摯な取り組みがあってこそと心から感謝申し上げます。少子高齢化が顕著になっている現在、皆様のように地域で率先してご活動していただけることは、行政としても本当に心強く、今後ともよろしく願いいたします。

(次頁へ続く)

[前のページへ](#)

[次のページへ](#)

(前頁から続く)

最後となりましたが、加藤理事長様をはじめ、役員の皆様方のご活躍に心から敬意を表し、「グループ わ」の皆様が、地域に根付いたボランティア団体として、ますますご発展されますよう心からお祈りいたします。

平成21年6月27日

(財)こうべ市民福祉振興協会
専務理事 岸本 義一

退任役員代表挨拶

前副理事長 藤田 勝

退任役員を代表しまして一言ご挨拶を申し上げます。それぞれの立場で任務を遂行して参りました私ども14名と事務局員2名は本日をもって、グループ わ の役職員を退任いたします。在任中、無事任務を果たしてこれたことは、皆様方のご厚情に支えられた結果であると、感謝いたしております。

設立10周年記念事業を行う年にお世話になり、「わ」の成り立ちや諸先輩方が「ボランティア」という行動の中で社会還元活動に真摯に取り組まれる姿勢に皮膚感覚で触れる機会に恵まれたことは私の大きな財産となりました。

私の在任していたこの2年間、積極的に外に出て多様な活動に取り組んでまいりました。これらの活動の中で感じたことは、「わ」に対する周囲の期待感の強さであります。期待されることは認知されることであり、それだけ責任が生まれることでもあります。法人格を取得して6年目、益々「社会還元センター」としての社会的使命は大きくなってきております。

先ほど、加藤理事長より示された「子どもの健全育成」・「高齢者の健康といきがいづくり」は、今年度の2本柱として具体的に取り組まれることと思っております。どちらも潜在的問題を抱えており、周囲からの期待感は、NPO活動法人の使命感にも連なるものであると考えます。この大きな課題に向かって、「グループ わ」が更に発展されますことと、21年度の役員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念しまして退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

[前のページ](#)

新役員の紹介

加藤勇治 理事長

「子どもの健全育成」と「高齢者の健康増進といきがいづくり」

引き続き理事長の重責を担うこととなりました。私達を取り巻く環境を改めて考えてみますとグループわに寄せられる期待の多くは次の2つの問題に集約されると思います。

1つは「子どもの健全育成の問題」です。昔と異なり核家族化が進み、祖父母と暮らした経験のない子どもがほとんどの世の中です。学校でも、家庭でも子どもがのびのび育ちにくい環境にあります。学校では教えられないことや昔ながらの日本の心を地域ぐるみで子どもに伝え学ばせなければならぬ状況にあります。また、昨年神戸で開催された環境サミットで環境問題が空前のブームとなりましたが、環境保全や省エネ対応の取り組みが今や一般家庭レベルで叫ばれています。「もったいない」の言葉が身につけている私達の世代が子どもたちにムダをなくすこと、環境保全の重要性を訴えつづけねばなりません。経験ゆたかな熟年世代の人たちが思いやりの心を持って子どもに係り、「子どもたちの健全育成」の輪に加わることが地域ぐるみで求められています。

2つ目の問題は高齢者の「健康といきがいづくり」の問題です。人々が長生きするようになり、急増する高齢者の健康づくり、いきがい作りの問題はいまや社会問題といえます。現在高齢者に普及しているグランドゴルフ、ローンボールといったニュースポーツが「健康増進、いきがいづくり」の定番ですが、高齢者自らの健康増進・いきがい造りのためにも要介助、要介護高齢者の手助けをすることが社会的に歓迎され、要請される時代となっています。

経験ゆたかなシルバー人材を擁するわの活動は今後ますます重要性を増すに違いありませんが、以上述べました「子どもの健全育成」と「高齢者の健康増進といきがいづくり」を事業運営の2本柱に据え、事業運営に当たってまいりたいと考えております。一人でも多くの方がボランティア活動に

(次頁へ続く)

[次のページ](#)

(前頁から続く)

加わり、共に汗を流し、ボランティア先に喜んでいただける、そんな「環境づくり」「基盤づくり」に新年度は本格的に取り組みたいと考えています。

わに寄せられた熱い期待を裏切らないよう、引き続き誠心、誠意事業運営に邁進することをお誓い申し上げ理事長就任の挨拶といたします。どうか、よろしくお力添えいただきよう引き続きお願い申し上げます。

西田 圭一 副理事長(兼 財務部担当・正)

「組織の再編成」

NPO法人になり6年目を迎えるが、グループわは今後どう進むのが見えない。

現在、本部、区会、部会がそれぞれの立場で活動しているに過ぎなく組織化されていない。

また、震災から15年が経過しようとしているが、年々ボランティア活動への関心が薄らいできている現状から見て、ボランティア活動のあり方(わの定款では何でもできる事業目的になっている。)を再検討しなければならないと思う。

本部役員として今後グループわの目標を明確に打ち出し、組織の統一を図らなければならないと考える。

今後の活動方針を考えるに当たり、今までの活動状況を重視して、今後、子供中心の活動、即ち、子供の健全育成のための活動を中心に 伝承文化の継承 環境、自然教育の支援 防災教育の支援

学習支援等を本部、区会、部会がそれぞればらばらに活動するのではなく、組織の再編成をはかり、地域活動中心に展開を図るよう方向付けをしていきたい。

清水 英暢 副理事長(兼 事業担当・正)

「大阪のおばちゃんから神戸のおじちゃんへ」

1年前「大阪のおばちゃんになりたい」との気持ちで本部の一員として活動に参加したが、やっと全体像が掴めてきた。よく疑問をぶっつけて、なるほどと理解することも多かった。これはこれで大切なことだと思う。わの出来ていないことも見えてきた。2年目に入って、少しは役に立つこともしたいと思う今日このごろです。本部にいる

と、つい頭で考えるだけになる傾向があるので、意識して現場を見て体験していきたいと思います。10年選手など数人の先輩が抜け、寂しい気持ちもあるが、新しい本部担当者も加わり、ちょっと先輩風吹かそうかと考えていたら、後輩の方が年上で活動も熱心。これは当てが外れた。今年は震災時のボランティアのありがたさを忘れないよう「神戸のおじちゃんになろう」と、また1年生の気持ちでがんばります。ご指導のほどよろしくお願い致します。

長谷川 洸士 理事(企画・広報部担当・副)

「3年目の新人」

グループわに広報担当として参加して2年、情報誌の在り方の改革半ばにして、今度は企画担当として、本部機構の諸規定類の制定、区会、部会の活性化対策を推進することになりました。

グループわがNPO法人となってからも、ボランティア活動を精力的に推進して来ましたが、法人として運営していく基本的規範に関して十分な整備がされているとは言えず、常識的に考えられる最低限のルールを成文化して、その必要性を理解して頂き、これを遵守することにより、会員の皆さん誰もが安心して、間違いなくボランティア活動を他のNPO法人、関係団体とも協力することができるよう体制を整備してゆきたい。会員の皆様のご協力をお願いします。

渡邊佳視 理事(事務局長 総務担当・正)

「健康管理に気を配りながら」

事務局の仕事の内容を一覧しますと、小さな文字でA4の用紙数枚にぎっしり詰めても直余りある、多岐・広範な仕事があるのがわかります。そのごく一部だけがやっと分かりかけたところに1年が終わってしまいました。2年目は事務局長という大きな荷がのしかかっていたのスタートをきって、早や3ヶ月を終わろうとしています。

これからも、“わ”本部の歯車の一つとして、ますます順調に着実に回り続けることができるように、一番大切な自身の健康管理に気を配りながら、諸先輩の指導を仰ぎつつ、誠心誠意努める覚悟です。ご協力ご支援をよろしくお願い致します。

[前のページへ](#)

[次のページへ](#)

徳増 芳男 理事（総務担当・副）

カレッジで良き仲間恵まれて楽しい3年間を過ごさせていただきました。卒業後どうしようかなと考えていた時に、グループ“わ”に入り活動しませんか！とお誘いを受けました。軽い気持ちで“お手伝いさせていただきます”と返事して、4月から活動が始まりました。予想していた以上にいろいろな業務があり、戸惑いながらも先輩理事に教えてもらいながら事務処理を覚え始めたところです。カレッジで多くの良き級友に出会って楽しい思い出が出来たように、グループ“わ”の活動を通じて、カレッジとは違った経験や思い出が出来れば幸いかなと思っています。カレッジ在学中は、ケナフの会、男の料理教室、エコ旅行クラブ、歴史探訪クラブに入り日程を調整しながらほぼそれぞれの活動に参加することが出来ました。カレッジの思い出で忘れられないのは学園祭です。実行委員長の皆さんや多くのスタッフのみなさんの協力で、天候にも恵まれ第13回学園祭で活動できたことは今では懐かしい思い出です。

気心の知れた仲間と三ノ宮や神戸駅の近くで懇親会とか反省会とか理由をつけてワイワイガヤガヤ云いながらの飲み会も好きですが、もうひとつの趣味はバーベキューで友人たちと3Kgくらいのブロック肉を輸入した大型グリルで焼いてビールやワインで楽しむことです。

今年は小学校の2学期から学習支援のお手伝いをさせてもらう予定です。先日、小学校に行って半日だけ子供達の勉強風景を見させてもらいましたが、学習支援でお手伝いをすると言うより、こちらが子供達から元気を貰うことになりそうです。元気な子供達に出会えるのはこの上ない喜びです。

宮崎 芳江 理事（総務担当・副）

2年目を迎え、グループわの仕事が少しわかってきたように思います。これからも、諸先輩とともに微力ながら自分なりに楽しく健康に気をつけて頑張っていきたいと思っています。よろしく願います。

藤田 忠之 理事（財務部担当・副）

「わの要 財務に全力を」

シルバーカレッジを卒業し、いよいよ自由でゆとりとした生活に入ろうと思っていました。そこへ、“わ”本部より仕事の依頼があり、お世話になることに決めました。“わ”の要である財務を担当することになりましたが、実務経験も少ないですし、退職後の空白期間もあり、早急に勉強し一本立ちしなければなりません。そのためには「挑戦者の気持ちで、前向きに努力する」このことを常に心がけ、邁進していきたいと思っております。会員の皆様のご指導、ご協力をお願いするしだいです。

今田 紘 理事（広報担当・正）

シルバーカレッジで「情報誌」の編集を行っていた経験を生かして、昨年度は「情報ぎやらりー」編集のお手伝いをしていました。グループわについては、一応知ってはいましたが、それほど内容を深く知っていたわけではありませんでした。「ぐるーぷ“わ”5年のあゆみ」や「設立十周年記念誌 丘に抛って十年」を読みかじったり、1年間「情報ぎやらりー」編集の手伝いをしているうちに、はじめて広範な活動や規模の大きさ、地域との協調性、幅広い事業活動の一端を窺い知ることができました。直接の担当は「情報ぎやらりー」を中心にした広報担当ですが、須磨区会および国際部会の担当にもなっています。今年から、理事として内部よりわの活動を支えてゆくことになるわけですが、会員全体の支えがあってこそ始めて成り立つ組織ですので、皆さんとともにより活発な組織づくりに参画してゆきたいと思っています。

道満 俊徳 理事（事業担当・副）

生活環境13期卒の道満俊徳です。理事に任命され、事業部（イベント）担当になりました。

グループわが携わっている日々の活動は、かつては思いもよらなかった程、多くのボランティア活動とイベントがあります。（本部、環境未来館など含めば年間80以上もある）

手始めに、毎年多くの事業（イベント）活動を
（次頁へ続く）

[前のページへ](#)

[次のページへ](#)

(前頁から続く)

推進されてきた実績を紐解いて、内容確認すると共に 徐々にですが、日々事業部の実務を悪戦苦闘しながら取り組んでおります。そして、先輩諸氏の多忙な勤務、日々のご努力を目の当たりに致しまして、少し気の引き締まる思いです。

わ の定款第二条に「蓄積された知識・技能を有し、豊富な経験を積んだ人たちの能力を福祉活動・健全な街づくり・健康づくり・環境保全啓発・国際協力・生活文化の伝承・障害者、高齢者、学童の健全な育成と公益の増進に寄与することを目的とする。」とあります。この目標を達成するには、依頼されたボランティア活動に対して、この目的をもって活躍されている部会・区会の方々と一緒になって対処していかなければなりません。イベントには多くの方々にご参加頂き推進していくこととなります。どうぞ 今後ともご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

米倉 和子 理事(事業担当・副)

グループわのボランティアのコーディネータをさせてもらって3年目を迎えました。グループの皆様のパフォーマンスの多さにびっくりしています。とくに、フルーツフラワーパークでのイベントでは大活躍していただいております。フルーツフラワーパークでは、秋に“わの日”で文化部会の皆様にご参加していただく予定です。

増金 スミ子 理事(事業担当・副)

「自分の人生を大きく生きる」

グループわの活動も早3年目を迎え、“大成期”(後述)までとはいきませんが、ボランティア活動の基礎を十分勉強させていただき、次なるステップに精進を重ねている所です。日本の武道や芸事には「守・破・離」という教えがあります。“守”とは、教えられた(オーソドックス)そのままを身につける。“破”とは、ある程度身につけた基礎の上に自分の才覚や工夫によって基礎と違ったやり方を身につける。“離”とは、“守”、“破”を行った上で他人に教えられたこと、自分の考えでおこなって良かったことをミックスして実行する。

「守・破・離」は、修練期、躍進期、大成期とも言い換えられますが、いづれにしても人生は岐路の連続です。今は“わ”での仕事を、Plan-Go-Seeの形でチームワークを取りながら頑張っています。

土井 昭政 非常勤理事(区会代表)

「区会活性化を担って」

本年度の北区会長の要請を、突然前会長からあり、何も判らずに引き受けたところ区会のまとめ役として、本部の非常勤理事を理事長から仰せつかった。

私はカレッジを卒業後いなみの学園に在籍したが1年で退学し、その後“わ”の国際部長を担当し、“わ”の業務を若干知り得たが、区会や本部の業務内容詳細は、あまり知らなかった。今も本部や区会の実情を把握しないまま区会長と理事を担当しているしだいである。しかし、“わ”は、本年度その活動原点である“地域社会での社会還元”に重きをおき、区会の活性化に取り組むことになっており、北区会は言うまでもなく、区会の取りまとめ役として各区会長とともに区会の活性化に精力を注ぎたいと思っている。

本部には多くの理事が在籍され、夫々担当業務を遂行されているので、一緒になって担当業務の遂行をはかりたいと思っている次第である。

菅田 忠志 非常勤理事(部会代表)

今年度非常勤理事に選任いただきました生環11期の菅田でございます。私は会員登録して3年目になりますが、入って感じたことは「なんと幅広い分野で活動されておられる方々の集団であることか」ということでした。私の頭の中でのボランティア団体、とりわけ NPO法人といわれる団体は、まず「こんな活動をするんだ」という創設者の思いがはっきりしており、その思いに共鳴する人たちが集い、ベクトルを合わせ、たてた目標に向かって行動するものと認識していました。

ところがグループ わ はそうではなかった。3年間の学びを生かし、自分流にボランティアな行動をしていくことが期待されていました。1,200人を擁するパワーで、いろいろなことが出来る人たち
(次頁へ続く)

[前のページへ](#)

[次のページへ](#)

(前頁から続く)

たちの大きな集団に育っていました。しかし、それはそれでまた育ち行く悩みも見えはじめた時期でもありました。今、このような時期を迎え、昨年度から「区会・部会を活性化させよう」との審議・検討が始まっております。

微力ではありますが、部会の立場でこの審議に加わり、グループわの発展に協力できればと思っております。

季節の草花

ノアザミ

(生8) 久保 知彦

アザミのなかまは100種類ほどあるようですが、この中でもノアザミはもっとも普通にみられる多年草です。アザミ属は、筒状花のみで構成され、花の色は紫色というのが特徴ですが、この苞の部分は粘液をだして粘るのが特徴で、葉は極端に深く裂けており縁がとげ状で、さわると痛い。

春の花のように思われていますが、5~8月にかけて花が咲きます。高さ50cmから100cmほどで、「あざみの歌」も歌われているように親しみやすい花です。しかし、アザミのなかまには、高さ2mにも達するサワアザミやハクサンアザミというのがあります。

福井県の山奥で白山の山麓にちかい地方にはこのアザミが自生していました。葉は広くてあまりトゲがありません。このあたりではこの葉をトイレの用足しに使っていました。

オオニジュウヤホシテントウ(テントウムシダマシ)のなかまは草食で、このアザミを食草としており、ジャガイモの葉を食べる害虫でもあります。この虫の食性を調べるために、山奥の分校(小中あわせて8名)に滞在したことがあります。今はこの村も分校もなくなってしまいました。



「子どもたちを見守ろう」

(園9) 中尾 富道

安全であるべき学校で、幼い子どもたちが突然襲われた、附属池田小学校の悲惨な事件(平成13年6月)は、子どもたちをはじめ、保護者・教師を恐怖に陥れました。その後も、近畿各地の学校で類似の事件が続き、私は「なにか施策を講じないと子どもが危ない」との思いを強くしました。

私たちの街ひよどり台では、主にお年寄りや子どもたちを対象に、30余りのボランティアグループがいろんな活動をしています。

これらのボランティアグループは年に一度集まり、活動報告、意見交換、新規事業などを話し合います。その席で私は、危険にさらされている子どもたちを地域で見守る、新しい活動の立ち上げが必要ではないかと提案、即、参加者全員の賛同を得ました。平成16年春5月の集いでし

ボランティアの心

た。地域内の全4,000戸にボランティア募集のチラシを撒き、8月末には、呼びかけに応じて参集の40名で発足集会を開きました。会の名称は「ひよどり台小学校こどもたちを見守る会」とし、提案者の私が代表に選任されました。

新学期9月に開始した活動内容は、「授業のある日、毎日午前8時半から午後4時半までの8時間、2名のボランティアが2時間交代で校舎入口に常駐し、来校者の確認をする」と決まり、翌年の12月からは、「低学年の下校時にあわせて地域をパトロールする」を加えました。活動開始以来5年、地域の関心は次第に高まり、現在会員はシルバーカレッジ0Bなどを中心に170名になりました。

ことしもまた可愛い1年生66名を迎えました。私たちは、子どもたちの安全・安心を願って「温もりのある笑顔と元気なあいさつ」をモットーに、見守り活動を続けています。

(このコラムはカレッジ情報誌「爽風」からの転載記事です)



平成21年度第1回『学習支援の集い』開催

子どもたちの学習支援委員会

日時：平成21年4月21日(火)午前10時～12時

場所：KSC学習室1・2, 3・4

出席者：委員・支援者合計39名

来賓：KSC 中山喜統 マネージャー

松本容子 学生支援リーダー

1. 全体会議

井上 堅副委員長の司会のもと、出席者全員を対象に平成21年度の取組みを中心に情報提供がありました。

(1) グループわ加藤勇治理事長挨拶

日頃、学習支援活動にご尽力いただき有難うございます。学習支援活動を、わの本部事業の一環としてスタートしてから今年で5年を迎えます。

学習支援活動は、年々実績を積み重ね各校から熱い期待が寄せられて来ました。特別支援の要請の急増等課題も多いですが、一人でも多くの方が学習支援に加わり学校現場で苦勞されている先生方や子どもたちに喜んでいただけるよう共に頑張りたいと思います。

本年度第1回目の学習支援の集いですが、時間の許すかぎり情報交換いただき、実りのある集いとしていただきますようお願いいたします。

(2) KSC中山喜統マネージャー挨拶

この度藤原マネージャーの後任としてこの4月からお世話になることになりました中山でございます。まだ着任して日が経ちませんので右も左も分からない状態ですがよろしくお願いいたします。

学習支援活動につきましては、グループわの活動は既にお聞きしておりました。経験豊かな皆様方に子ども達に触れ合っただけは、子どもの成長にとって非常に大事なことだと思います。市内の小学校からは、教科の指導補助を始め、実技指導補助、放課後の補充学習の補助、ゲストティチャーなど様々な要請があろうかと思っております。こう云った要請に応えまして長くご支援をして頂けるのも、中沢委員長を始め、加藤理事長、そして会員の皆様の真摯な取組みがあつてのことだと思います。私もこのカレッジに来まして、ま

[前のページへ](#)

だ右も左も分かりませんが、皆様と共にこう云った活動に参加できるように頑張ったいと思います。また事務局ではこれまでに加えまして、学生支援を強化するため、学生支援リーダーとして、松本が新たにそういう部門に着任しました。

21年度から頑張ったいと思いますので、皆様ご協力よろしくお願いいたします。

(3) 平成20年度の活動報告と平成21年度の取組みについて

中沢委員長から平成20年度の活動報告と平成21年度の取組みについて次のとおり説明がありました。

(3.1) 平成20年度の活動報告

21年度は学習支援活動がわの事業としてスタートしてから5年目となる。下表のとおり皆様のご尽力で着実に実績を伸ばしてまいりました。

	支援校数	延支援者数
H.20年度実績	36校	270名
H.19年度実績	30校	262名
H.18年度実績	25校	214名
H.17年度実績	18校	81名

(3.2) 平成21年度の取組みについて

年々学習支援の要請が急増しており、仲間を増やしこうした相互研鑽を重ねながら昨年以上の実績が残せるようともに頑張らしようとの力強いアピールがありました。特に今年はいこれまでの特別支援要請急増対策に加え、英語教育への新たな支援要請問題についても対応がせまられている状況について説明がありました。

2. グループディスカッション

全体会議のあと5グループに分かれグループディスカッションを実施しましたが、時間の制約があつたものの、活発な意見、感想、議論がありました。主な発言を内容別に整理すると次のとおりです。

(1) 特別支援問題にかかわる意見や感想

・特別学習支援では、子ども達から元気を貰っている。

・適当な支援校があれば、支援したいので申し込みたい。

・特別支援の現状は教科により仲良し学級と普通

(次頁へ続く)

[次のページへ](#)

(前頁からの続き)

学級を行き来するため、時間割により先生の指示に従い、指示された子どもに付き添っている。

・特別支援は画一的でなく、いろいろなケースがあり一概に言えない。

・特別支援では、普通学級に入っている子と特別学級に入っている子への2つの支援があるが、どちらを選ぶかは父母の考えであり、私たち支援者は学校と父母の話合いを踏まえて、支援していくことが大切。

・特別支援では、自分の力不足でこれでよいのかと考えることもある中で、やはり子供中心にやっていくことが大切。

(2) 学習支援活動で実感した問題

・学校が子供の学習環境を整えるために家庭支援に涙ぐましい努力をしている事例の報告もあり、教育の重さを改めて知った。

・支援学校で、休み時間も昔遊び等子供と一緒に時間が続き、座っておれるのは給食の時だけ。70歳を過ぎると体力の限界を感じる。

・子どもの潜在能力を引き出すのに、褒めてあげることやルールをしっかり教えることが大切。

・学習支援者の役割では、若い先生方は熱心だが意外に世事に疎いことや、テレビや携帯が普及し、子どもの周囲には情報が氾濫しており、子どもの活字ばなれも目立ち、読み聞かせに人気があるものの、読書の習慣が根付かないのや、以前は祖父母も含め親が子に躰をしていたのが出来ていないのを補うのも大切。

・学習支援を担う経験豊富なシルバー人材が“かつての祖父母の役割”を学校を舞台に果たしている。

(3) 学習支援者と学校側コミュニケーションの問題

・学習支援者と学校側コミュニケーションは学習支援を円滑に進める上で特に重要。

・年明けの1月になると、校長先生に来期も支援してもらえるかどうかの話しがあり学校との良い関係が出来上がっている。

・具体的な学習支援活動のなかで学校の要請とマッチングしない事例や支援学級で先生と一度も会話がなかったという事例もあり、学校或いは先生と仲良くなるのが大切であるものの、学校・先生

と私たちとの良い関係をどう築いていくかが大きな課題。

・校長、教頭先生は忙しい。しかし、活動面で納得出来ない場合は勇気を出して話し合う機会を作ってもらふ努力が必要。

・活動上特に支障がなければ、担任教諭とは充分話し合えば、特段校長や教頭を意識する必要はなく、誠実に子どもに向き合い、粛々と活動に打ち込めばよい。

・学校が何を期待しているのか、判りづらい。

・先生方との対話や意思の疎通が十分でない。

・自分達に対する学校側の評価や、何を期待されているのかがわからない。

・いろいろ不満や不安があっても、むしろこちら側から先生方の中に能動的に入っていき、自分の位置づけや、やりがいの発見に努めるようにしたい。

・学習支援活動についての学校側の対応が、まちまちである。学校をあげて、丁寧に対応してくれる学校と、校長も教頭も全く知らん顔をしている学校もある。ボランティアとして心を持って当たっているのに、学校側も心を持って対応して欲しい。心と心のつながりを求めたい。

(4) その他

・カレッジの地域活動の一環として支援する学校と拘わっていく場合、活動を継続していくために、「グループわと今後どのように連携していけばよいか」これからの課題がある。

・これから支援活動に参加するのに、支援する学校の探し方で、家の近くが長続きするために大切であり、まだリストに上がっていない要請校が今後もあるはずだ。

平成21年度第3回「学習支援の集い」は11月下旬開催を予定しています。

委員長 (音9) 中沢 保夫
第2回(7月21日開催)では、はじめて、神戸市教育委員会 村谷首席指導主事、神戸市シルバーカレッジ 大塚事務局長にご出席いただきました。グループディスカッションでは出席者の熱心な話し合いが行われましたことも併せてご報告申し上げます。

環境部会

しあわせの村で市民バードウォッチング
「野鳥と自然観察会」代表 (生11) 茅中 英一

平成19年5月にスタートした市民探鳥会は南の国から子育てのために渡って来た夏鳥達を迎えて5回目となりました。

5月10日(日)恒例となって来た「しあわせの村・市民探鳥会」は眩しさを増す新緑の中、63名の市民が参加して開かれました。芝生広場で9時30分から受付を始め、早めに受付を済ませた人は、“わ”「野鳥と自然観察会」のサポーター10余名から、周辺に展示した野鳥の巣箱や巣やパネルの説明を受けたり、双眼鏡の扱い方の指導を受けていました。

5回目を迎えた市民探鳥会

63名が参加18種類の野鳥を確認

定刻の10時となり、畑中事業推進課長が村の良さを満喫されるようPRされ、ついで“わ”「野鳥と自然観察会」の世話人代表が、コース、野鳥種等につき説明し、経験者と初心者の2グループに分かれて、10時20分に出発しました。コースは、芝生広場から鎮守の森へ行き

巣箱を観察し、日本庭園の中を
通って、P4駐
車場の横を下り
ピオトープに立
ち寄り、堂坊池
を通り、星の広
場に立ち寄った



後、芝生広場へ戻る3.5キロメートル、約1時間40分のコースでした。堂坊池では、カイツブリが対岸の水辺の浮き巣で卵を温めている様子が見られ参加者は感動していました。また一瞬でしたが美しいカワセミが飛ぶ姿も見られました。テントキャンプ場近くの星の広場周辺では、夏鳥のオオルリ、キビタキ、センダイムシクイなどの美しいさえずりが聞かれました。

芝生広場へ帰って来た後の「鳥合わせ」では、初めての試みで観察出来た主な野鳥の写真とその鳴き声を参加者に披露し喜ばれました。観察出来た野鳥は18種類で、内、姿11種類、声7種類でした。

最後にヤマガラやシジュウカラが巣立った後、巣箱から回収した野鳥たちの芸術作品とも言える巣材を希望者にプレゼントし、自然環境保護活動をPRして12時半に探鳥会を終えました。

[前のページへ](#)

市民参加 春の森林浴ウォーキング

市立森林植物園～布引～新神戸

環境部会長 (生11) 菅田 忠志

梅雨に入り、森林植物園の緑が一層映える季節を迎えた6月23日、あじさい祭りの期間でもある神戸市



立森林植物園から布引～新神戸に下るコースで“わ”が開催する一般市民を対象とした恒例イベント『森林浴ウォーキング』を実施しました。当日は運よく梅雨の晴れ間となり、今回も植物園主査の福本様に案内していただき、あじさいにまつわる興味深い話を聴きながらの森林浴ウォーキングとなりました。参加した22名のメンバーは、また一味ちがった植物園の楽しみ方をされたことと思われます。

新緑とあじさいを楽しむ

午後は、ツェンティクロスを経て布引へ。途中、満水状態の布引貯水池や水量豊富に落ちる布引の滝の景観を楽しんだ森林浴ウォーキングとなりました。

【参加者から届いた感想文】

今日はお天気を心配していましたが、素晴らしい晴天で良く歩き楽しい一日でした。あじさいはもう満開期を少し過ぎた感じでしたが、さすが森林植物園は美しく、何より新緑が素敵でマイナスイオンを一杯浴びました。ツェンティクロスは少し怖かったです。皆さんとキャアキャアと楽しく良い汗を一杯流しました。初対面の皆さんでしたが私達3人もすぐ仲良くなり、さすが“わ”だと今更ながら実感しました。

ありがとうございました。また参加したいと思います。首からぶら下げた万歩計が22,692! ほめてください!

KSC生活環境1年生校外授業

『人と自然の博物館』 学習を支援

今年もKSC生活環境コース1年生の授業「三田の県立人と自然の博物館の学習」サポート要請を受け、館内テーマブースの案内、知り得る範囲でのサポートを行いました。多くの常設展示のほか、このところ“三田恐竜”の話題も多く、興味深い校外学習のお手伝いことができました。

[次のページへ](#)

新規参入クラブの紹介 里山和楽会

代表 (生13) 道満 俊徳

この度、「NPO法人社会還元センターグループ」の環境部会に新規参入した「里山和楽会」の概要について紹介させていただきます。

里山和楽会経緯

平成19年3月、神鉄谷上駅の南、北区下谷上西丸山にある社会福祉法人かがやき神戸が管理する「かがやきの森 東地区」が、人手不足のため放置された里山林であることを知り、早速、生環13期生に呼びかけ、里山林整備のためのボランティアグループ「里山和楽会」を結成し、活動を開始することになった。

全員が里山林整備の手法も何もわからないままに、数ヶ月の学習・研修、現地での実践活動から、「里山とは何んぞや！」が少しは習得でき、私たちの指針となる当東地区の「里山林整備ランドデザイン」を策定して、本格的に取り組むことになった。

活動を進めるうちに、里山林の景観や四季折々の変化は、植物への関心や興味、知る楽しみを育てくれた。

さらに、この「東地区」周辺は、かつて生活に直結していた里山であり、その痕跡が随所に確認でき、“里山林は人と自然との共生の場であり、人が介入しなければ、即、放置林になる”ということも実体験できた。

今回、この小規模(約3ha)ながらも、また短期間であったが、里山林整備再生活動を通して、汗を出した作業後の喜び、人の和や地域交流の大切さを体感しています。また、地球が抱えている生物多様性保全の重要性をはじめ、様々な環境問題を学び、その保全に和楽会としての取り組みを続けています。



里山林整備作業

[前のページへ](#)

里山和楽会の活動

・定例活動日と時間

毎週月曜日に現地で里山林の管理作業。ただし、8月は果樹園の散水作業と各地の里山見学や学習にあてる。活動時間は9時～12時現場作業、昼食、13時～14時30分ミーティング(於地元の自治会館で)、ミーティングは、当日の活動や次週の計画について話し合い会員の情報共有の場とする。

おわりに

私たちが取り組むこの里山林の整備再生活動は、継続と継承が何より大切であると考え、今後とも取り組んでいきます。

皆さん、一度トライアルに来られませんか、ご案内いたします。



観察木のデータ採取

神出自然教育園で田植えのサポート

八園会代表 (園8) 梅野 卓男

6月の活動の一つに小学校3年生と5年生の田植え体験補助がありました。

その時の会話で、5年生の女の子が「私、田舎に住んでいるけど田植えをするのは初めて・・・」というのです。

「どうして??」と質問したら、「お父さんが機械でみんなやってしまうから・・・」との答えでした。

「ああ、そうか・・・」と意味は分かったものの、田植えと稲刈りは家族総出の作業だと先入観があった身としては、時代の移り変わりや自分の年齢を感じたひと時でした。

・・・そして、今の子には「猫の手も借りたい」という言葉は通じないのかな・・・などとも思った次第です。



[次のページへ](#)

福祉部会

1909年から100年の今
「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト」がありますが知っていますか！

福祉部会長 (福11) 横井 幸雄

1950年代に、ノーベル平和賞の候補に推薦されガンジー、シュバイツァーと共に世界の三大聖人と並び称された賀川豊彦を知っていますか？

1909年、神戸の社会的弱者の暮らす地域に入り、共に暮らしてこれ等の人たちのために働きました。仲間と共に、福祉の向上、労働運動、協同組合運動（生協の創立者）平和運動等、多様な運動を展開されました。神戸の福祉、暮らしの根幹を作られた方として忘れてはならない方と思います。

「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト」（プロジェクト委員長；今井鎮雄KSC学長）は、賀川豊彦と仲間たちの活動を100年に遡って検証し、評価して、今の課題の解決に生かそうとする活動です。賀川豊彦のメッセージは次のようです。

1. 逆境や深刻な苦悩を克服して、清廉な生涯を全うした。
2. 人間愛に基づく共生、互助を訴え続けた。
3. 常に世界の平和を希求し続けた。
4. 良心やモラルを何よりも重視した。
5. 他人の苦しみを共有する事に努力して、社会的弱者の救済に心血を注いだ。

今井鎮雄学長は自著「時を刻む、今井鎮雄の仕事」の中で賀川豊彦の先見性について書かれています。

共産主義の経済学も、資本主義の経済学も自己の利益の拡大を追及するもので、人は物をたくさん持てれば幸せになるというのは錯覚であると述べた賀川豊彦の先見性は学ぶ必要があると書かれています。100年前に現代の社会の矛盾と問題点を指摘した賀川豊彦さんに学ぶ神戸プロジェクトに期待したいと思います。

グループ わ の方と共に、私はこのプロジェクトのボランティアに参加していますが、少しでもお役に立つことを願っています。また、賀川豊彦生誕100年を記念して設立した真愛ホームに、中央区会と福祉部会でボランティア活動をしています。参加して頂ける方を待っています。

東灘区会

キャッキヤ・ワイワイ 収穫だ！
東灘区 (園7) 富永 征児

神戸市立
遊喜幼稚園
(今年創立9
2周年)での
食育ボラン
ティア活動
を始めて5年
半になる。
メンバーは



現在10名で後期高齢者前後の仲間だが、精神的には勿論のこと、肉体的にも元気そのもの。野菜づくりの経験者もあり、都合のよい作業日に4名前後の方が月2回頑張って参加している。作業は園児と一緒に畝づくり、種まき、苗の植え付け、草抜き、水やりをする。皆で一緒に収穫の楽しみを持てるように、たまねぎ、だいこん、じゃがいも、さつまいもを主に作っている。

今年は6月11日にたまねぎを100個収穫、ソフトボール大のものも多く園児が引き抜くとき、力を入れすぎ抜けた時の反動で仰向けに尻もちつく園児もあり、笑いにつつまれ楽しい1日となった。

6月19日はじゃがいもの収穫、たまねぎの時と同様に園児が順番に茎を引っっこ抜き、じゃがいもが現れると歓声が上がった。そして手で掘ると次々にじゃがいもが顔を出し夢中で土掘りを楽しんでいる。大小合わせて40キロの収穫だ。収穫物は全て幼稚園に渡し、園児にはそれぞれ家族へのお土産として持って帰る。その夜食卓を囲みながら収穫の様子が話題になれば嬉しいことである。

現在はさつまいもが順調に育っている。秋の収穫そして園児と一緒に「蒸しいも食事会」を楽しみにしている。



[前のページへ](#)

[次のページへ](#)

兵庫区会

無理のない程度で活動

兵庫区会長 (生7) 大掛 敏夫

新年度になり、兵庫区会をご存知でない人も居られるので、自己紹介させていただきます。

兵庫区会は、わの会員の組織ですが、兵庫区の花のパンジーの名をとって、1期生が発足させた兵庫パンジーの会が別にあります。わの会員でパンジーの会に入会していない人もありますし、又パンジーの会員でわに入会していない人もありますが、大半の人が両方に入会しています。好きな処で楽しく交わり、無理の無い程度でボランティアをして、各自の健康に繋がることも、また、それが健康その他の理由で無理な人には、親睦の時に一緒に楽しもうというのが実態です。

今年度の活動他、6月までの活動は、市の安心センターからの生活支援と、サポーターを始め、区のボランティアセンターからの依頼が結構多く、区内の老人施設への傾聴ボラ・精神障害者施設での手芸ボラ・知的障害者施設での調理ボラ・デイサービスでのお花見車椅子介助とお菓子作りボラ・又震災後続けて来た安否確認のためのお元気コールの電話サービスと、友愛訪問も週1回の割合で活動・又新しく神大病院でのお絞りタオルを折る作業も始まり、種々各自で可能な活動をしている。勿論わからの明生園での音楽遊びほか、施設での折紙指導や、唱歌指導も継続して活動中です。

親睦の会としては、4月2日の定例会の後、会下山にてお花見の会(20名参加)にて親睦を深めました。例年4月は総会ですが今年は資料作成の関係で5月に行いました。

毎月1回(今年は第1木曜日に)区役所の地下の会議室にて定例会を行っていますので、未だパンジーの会を知らない人も覗いてみてください。

(8月は休みです。)今後の予定は、秋に親睦会を1



回・新年会と、ボランティアも継続と、区からの依頼・わからの依頼・他出来ることを無理をせずに受けていく予定です。今年もよろしく申し上げます。

[前のページへ](#)

長田区会

生活支援員

長田区会 (美8) 松本 治司

少子高齢化時代に入り、65歳以上の高齢者は約2,800余万人で、日本人口の5人に1人は高齢者と言われています。即ちその殆どは年金生活者ということになりますが、その受給者全員が必ずしも健康者ばかりとは限りません。身体障害者・知的障害者など日常生活において地域社会の支援が無ければ生活が出来ない年金受給者は大勢居られます、そんな高齢者をサポートするのは生活支援員です。

平成11年10月に厚生労働省所管の補助事業として全国の社会福祉協議会において「福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)」が発足しました。神戸市においても「神戸市社会福祉協議会こうべ安心サポートセンター」として事業を開始して、神戸市全域で支援活動を行っています。私達グループ「わ」の会員もこの支援員として活動を続けています。

生活支援員の任務は、日常生活自立支援事業法に基づき「判断能力が不十分などの理由で、日常生活上支障のある高齢者、障害者等の日常的な金銭管理や重要な書類の保管などの財産管理を支援する事にあります。しかし、現在私達が行っている支援事業は年金を所定日に自宅又は介護施設へ届ける仕事为主となっています。私は現在3名の高齢者を支援しています。男性1名(82才)女性2名(86才と76才)です。こうべ安心サポートセンターで現金を預かり支援者に届けます。毎回自己紹介をしないと私の顔は覚えて貰えないのが残念ですが、支援する日には「介護予防支援者」も同行しますので安心して活動が出来ます。おじいちゃん、おばあちゃんの昔話を繰り返し聞くのも仕事の一つですが、遠くで暮らす子供達の事を涙で話すときは、記憶も明確になり、私達もジーンとさせられます。この生活支援員の養成は毎年実施されていますが、カリキュラムは5日間で13項目を受講します、研修が終われば修了証書と一緒に「生活支援員証」を交付してくれます。是非皆さんも一緒に活動しましょう。

[次のページへ](#)

北区会

車イステニス ダンロップ神戸オープン 2009へのボランティア参加

国際部会・北区会 (国10) 土井 昭政



今年も車イステニス神戸オープンが、4月23日から26日まで、しあわせの村と三木ブルボンビーンズドームで開催された。16回目の開催で昨年度とは少し異なり、国際テニス連盟(I T F)車イス

テニスツアーのランクが上がり、I T F 3として実施された。加えてテニスボールメーカーのダンロップが特別協賛金を提供したので冠大会となった。

グループ わ 国際部会と北区会の会員が、昨年に引き続きボランティアとして延べ53名が参加した。昨年までは、しあわせの村のテニスコートでのみ開催されていたが、雨天を考慮し、最近では三木のビーンズドームも予約していた。結果的には使っていなかったため、今年はメインコートとビーンズドームとし、しあわせの村のコートはB、Cクラスの予選で使用され、最初の2日間のみとなった。そのためボランティア参加者が2ヶ所に分散したのと、ビーンズドームへの交通で若干の混乱があった。

我々が担当した作業は、空港への送迎添乗、駐車場整理、しあわせの村コートのテント設営・撤収、飲み物・弁当の配布、トイレの汚物回収などで、例年と変わらなかった。昨年まで居た我々への作業指示者がいなくなり、作業に戸惑いが生じたが、概ね順調であったと思っている。

今年の参加選手には日本で初めての車イステニスのプロとなった国枝選手がいたので、多くの報道関係者がビーンズドームに来ていた。来年も同様の時期に開催されることが決まっており、車イスを操りながらボールを打ち返す素晴らしいプレーを見ることができるボランティア活動に、わから多くの参加者が集まることを実行委員として期待している。いである。

新会員と北区会役員との歓迎交流会

北区会副会長、(国8) 佐伯義昭

北区会では、恒例により6月1日(月)しあわせの村研修館大会議室で、「新会員歓迎交流会」を実施した。本年、入会した新会員は、13期生32名、その他6名の38名で、今回の交流会には新会員8名が参加し、役員18名と交流した。

現在グループ“わ”の北区会員は総数378名(H21年5月)で、グループ“わ”全体の30%強を占めて

いる。各種活動は地域を4ブロックに分け実施している。今回の交流会には各ブロックの役員が夫々2~6名参加



した。交流会は定刻10時北区会長土井昭政の挨拶、ボランティアは楽しくやりましょうから始まり、つづいて わ 本部加藤勇治理事長からは北区会は会員数大派閥の地域で数は力なり1人でも仲間を増やし仲間づくりに心がけ“わ”の運営の重点である「こどもの健全育成推進」「高齢者の健康増進と生きがい作り」などに汗をかき楽しくやりましょうとの挨拶があった。それから新会員と役員の自己紹介、会則の説明、ボランティアグループの活動内容の説明(パワーポイントで)「神港園」「花山梅林会」「へ音記号」「K S C 広陵同窓会 In-Netクラブ」「通学安全見守り」「ここにこハウス」「清掃ゴミ拾い唐櫃台1丁目」、そして定例の年間行事等が発表された。その後、新会員からの運営委員の選出、質疑応答で会合は終了した。会合終了後、昼食を食べながら歓談し、午後1時に和やかな交流会は終了した。これを機会に、新会員の発想や意見を取り入れ、北区会を一層活性化すべきであると思った。いである。

花山梅林、「観梅とハイキングの集い」をしました。

花山梅林会事務局 (国9) 徳原 尚世

“道真が想いを 我らも 梅に託さん”



めぐる春と共に大切な自然を、そしてこの平和な世を、次世代が繋げて行ってくれるようにとの思いで、花山梅林を立ち上げて、2年目の春を迎えました。今年も紅梅が咲き始め、北区の遅い春の目覚めです。

梅林会のみなさまの力と知恵の結集のおかげで、梅林も拡充され、昨春150本植栽された梅の若木が、早や数輪の花を咲かせてくれています。

この機会に観梅を兼ねたハイキングを計画致しました。自由参加で申込も不要ですので、春の一日、足と目と脳の活性化をしてみませんか?

上記の花山梅林会初のイベントの呼びかけを、去る3月初旬に北区会メール保持の方々に発信いたしました。30名ほどご参加くださり、谷上駅から旧道を農村歌舞伎の舞台にも立ち寄り、1時間ほどの八(次頁へ続く)

[前のページへ](#)

[次のページへ](#)



(前頁から続く) イキングの後、花山小学校南梅林で、青空、満開の花の下、コンビニ弁当をいただきながら、北区の春を楽しみました。

梅干、コーヒー、梅ブランデーなどの接待の後、有無を言わず「梅ちゃん募金箱」を回ささせていただき、今年の梅苗100本のためのご寄付をいただきました。この欄をお借りしまして改めて御礼申し上げます。これからは毎年観梅ハイキングを予定しておりますので、みなさまのご参加をお待ち申し上げます。また、活動に興味を持たれ、ちょっとのぞいてみようかと思われる方はどうぞ下記にご一報ください。

塚本 Tel 591-6435 k_tsukamoto123@ybb.ne.jp
徳原 Tel 583-6761 toku700@nifty.com

西区会

竹の台小学校見守り活動“連続700日達成”
西区会 (生10) 井内 祐一



竹の台地区は、西神ニュータウン地下鉄「西神中央駅」南西に位置し、世帯数約3,300戸住民9,200人ほどの住宅地で、多くの公園が配置される等、住環境が考慮された町です。

さて、見守り活動がスタートしたのは、全国で子供達への凶悪事件の多発化傾向が現れだした平成17年12月、住民有志からの夏・冬の夜間パトロール等の活動がきっかけで発足しました。その後「子供達への痴漢行為0件を継続」および「その他、声かけ事案も大幅に減少」しており、黄色いベストの住民が地域の要所々々に立つことで空き巣等の犯罪防止にも役立っています。組織は「竹の台ふれあいまちづくり協議会」の下部組織、「地域見守りグループ」として現在登録者63名、内「わ」のメンバー11名が活動しています。そしてスタートからこの5月25日(月)で”祝“700日達成”に至りました。当日は事務所として使用している「クラブハウス」(竹の台小学校内に常設)へ学校長をはじめ生徒および保護者が多



[前のページへ](#)

数訪れ、お祝いと感謝の気持ちを表されました。

見守り活動は、風雨等に関係なく児童の登校がある限り休むことなく一日平均15名が参加し、延べ

10,500人が「児童の安全を守る」とともに通学路の「ポイ捨てゴミ」の回収を行なっています。また、児童たちとも「おはよう・こんにちは・さようなら」の挨拶から「今日は元気がないなあ・僕かぜ引いてるねん・早よ治しや・はいありがとう」等々の会話も生まれ、通行人からも「ご苦労さん」のお声もいただき、励みとなっています。我々見守りグループは全国に誇れる活動として、これからも800日・1,000日を目標に頑張っていく所存ですが、長続きの秘訣として「強制しない」「メンバー同士の交流」「子供達の成長を間近に感じる」等の気持ちを大切にしたいと考えています。

シルバーカレッジ卒業の皆さん、卒業で終わるのではなく、現役在校生の皆さんも「建学の精神」を忘れることなく地域のボランティア活動に大いに参加しようではないですか!!

知ってお得! 参加して楽しい!
グループわ イベント情報(8月~10月)

夏休み~秋期にかけて盛りだくさんのイベントが計画されています。グループわの会員、ご家族の皆さま、お知り合いの方々など、お誘い上、種々工作、昔遊びや見学会をお楽しみになりませんか!

8月予定表

開催月日	タイトル(場所)	内容
8月1日(土)~8月16日(日)	水の科学博物館の夏休みイベント (水の科学博物館)	毎日日替わりイベント皿回し体験昔遊び紙芝居など
8月2日(日)	かえっこバザール (神戸シルバーカレッジ)	使わなくなった玩具やグッズをかえっこしよう! 世界共通「カエコボイト」貰えるよ!
8月2日(日)	夏休み工作教室 (フルーツフラワーパーク)	夏休み宿題にピッタリな工作教室だよ!
8月4日(火)	企業のエコ施設を訪ねよう! (森永乳業神戸工場)	エコッキングに挑戦します
8月8日(土)	ハーバーランドの日神戸子供エコチャレンジ21倶楽部 (ハーバーランド)	多くのエコグッズで工作をしよう!
8月9日(土)	植物採集と標本づくり (野外活動センターあおぞら)	身近な植物を採集して押し葉標本を作ろう!
8月23日(日)	小学生夏休みお助け隊 (こう環境未来館)	材料も豊富、教える先生も多くなります。
8月29日(土)	しあわせの村夏休み工作塾 (しあわせの村研修館)	夏休み最後の追い込み宿題お助け隊だよ!

(9月、10月のスケジュールは次頁に掲載)

[次のページへ](#)

9月予定表

9月6日(日)	パラリンピックスポーツ・フィスティバル(しあわせの村)	お手伝い頑張ります。
9月6日(日)	KOBEふれあい音楽祭(神戸市シルバーカレッジ)	秋音楽を聴きましょう!
9月12日(土)	バードウォッチングと野草クッキング(こうべ環境未来館)	四季折々の野鳥を観察し、摘み草を料理しよう!
9月23日(水)	むかしあそびをしよう!(フルーツフラワーパーク)	日本の伝承文化 昔あそびを再現します。

10月予定表

10月10日(土)	神戸市シルバーカレッジ 学園祭(神戸市シルバーカレッジ)	腕に選りをかけて最高のカレーを販売!
10月11日(日)	第20回しあわせの村祭り(わいわいストリート)(しあわせの村芝生広場)	しあわせの村秋最大のイベントご家族で夕涼みがてらお越し下さい!
10月12日(月)	ごみと資源化の学習会(こうべ環境未来館)	日頃関心のある環境学習が学べます。
10月13日(火) 10月15日(木)	国際会議出席者夫人接待(日本文化ご披露会)	国際会議に同伴されるご夫人に日本古来の伝統文化の一端を体験して頂きます。
10月16日(金)	オープングランドゴルフ大会(しあわせの村球技場)	年齢・経験に関係なく手軽に楽しめます
10月18日(日)	知っている?しあわせの村にある里山(神戸市シルバーカレッジ)	しあわせの村昔は生活圏の里山林でした。痕跡を探ってみましょう
10月25日(日)	(仮称)健康ハイキング(須磨の山々)	須磨の地の利海&山ハイキングを楽しめます
10月31日(土)	企業のエコ施設を訪ねよう!(灘浜サイエンスクエア)	私企業が立ち上げている環境対策を見学しましょう

健康管理の徹底について(お願い)

NPO法人社会還元センター
グループ わ 理事長 加藤 勇治

ボランティアグループ責任者の皆さんへ

平素からボランティア活動の推進に種々ご尽力いただきありがとうございます。

わ の殆どの活動組織において最近高齢化が一段と進んでおり、しかも現状は一部の高齢ベテラン会員の献身的な取組みにより組織の活動が維持され、支えられていると言っても過言ではありません。

最近、こうした活動家の間で日頃の無理が祟って緊急入院するという予期せぬ事態が発生しました。日頃の健康管理は本人、ご家族は勿論、組織にとっても重要な関心事であり課題であります。

日頃、ボランティアグループを率いる皆さん方には、活動に当たって以下の点を特にご留意いただき

ますよう、お願いします。

- 活動面で無理なボランティア依頼は敬遠すること。
 - ボランティア活動は「出来る仕事を、出来る範囲で、楽しくやれること」が基本です。一時的に過重な負担を伴う活動は長続きしません。
- 活動の出番が特定の人に偏らないように活動予定を組むこと。
 - 特定の人に負担が重ならないよう留意ください。また、新人の確保、早期育成など一人でも多くの方が参加し、協力し合える仲間づくりが大切です。
- 健康管理(自己管理)を全メンバーに徹底すること。
 - 健康管理は各自の自己管理が基本です。
 - 組織運営上、高齢者、健康要注意者(脳・心臓疾患既往症のある方、成人病検査結果で要注意の指摘を受けた方など)については「活動面で支障がないか」「主治医のOKが出ているか」を、常に本人に念を押していただくなど、健康面の心配りをお願いします。
 - 特にグループ活動の推進的役割を果たしておられる責任者の皆さん方にはご自身の健康管理のみならず、後継者、業務の代行者の確保、育成にも日頃から力を入れていただきますよう、お願いします。

編集後記

平成21年度 わ の新体制が第6回定期総会において承認され、情報ぎやらりーの編集担当を私が引き継ぐことになりました。本誌の記事は(1)本部記事(2)区会での活動報告(3)部会での活動報告(4)一般記事(5)お知らせなどからなっています。情報誌が本当に会員の皆さんの役に立つように、記事内容の質を高めてゆくつもりです。できるだけ多くの会員の方からの投稿を期待しています。
(広報担当理事 今田 紘)

本部からのお知らせ

(1) わ 本部事務局は8月10日(月)~14日(金)までの間、夏休みにより閉鎖しますので、よろしくをお願いします。

(2) 情報ぎやらりー専用のメールアドレスが下記のように変更になりました。

アドレス; wa_gallery@wa-net.jp